

特42

456

禪師曾我

正觀世流講外家集卷

29

第...

禪師嘗談

教少一苑の名跡よりく音たうり

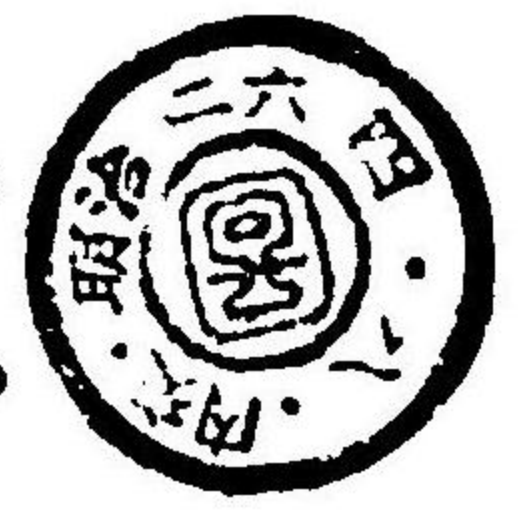
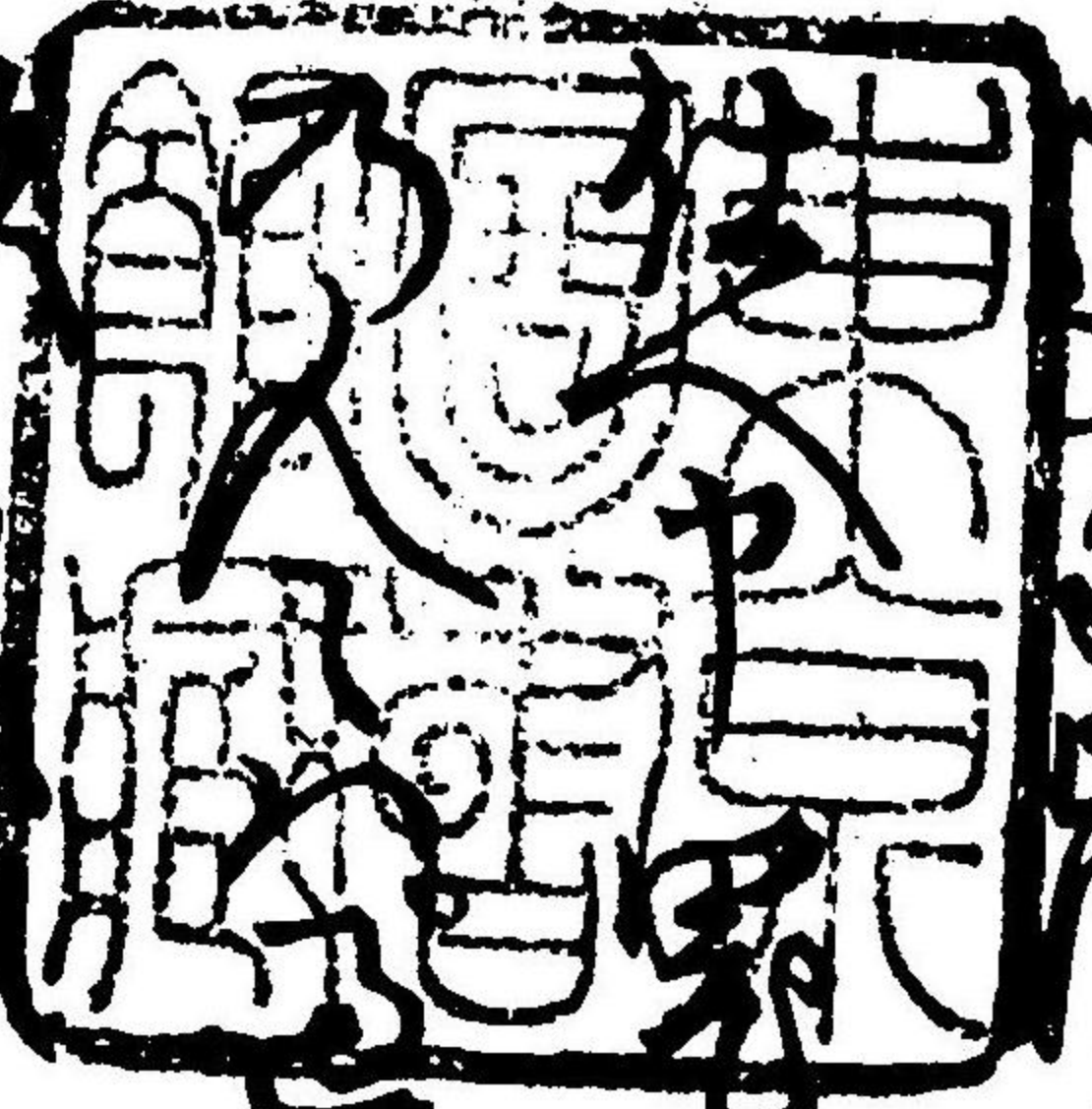
美家荒うあ 是人の嘗談の久しふ

住か 王國三郎少し。扱も兄弟

少一廿八日の夜たぐく老屋

形よ思ひ入安くと款を対を所もつ

いふ討き給ひて山。執宗先考を以て供



中へた。秋ののちとて古く下れ
 とのあやみくしむ種ようしを命たも
 うり。は秋見と持ぬ合う古く下りゆ
 使の位て序りしつぐ。花と入も
 つたし。金。それは鉄路よゆ。山は
 多き。い富士の根は煙又くまらぬ
 けまやよぬつらぬたはひく

^多く種よ。きく。花の根は煙又くまらぬ
 けまやよぬつらぬたはひく
 うふ葉肉やの。思は園に帰る。まきまき
 由まらゆ。久。行鬼王園に帰る
 加人。は。と。者。ま。一。此。方。を。あ。り。と。お。て
 唯今。の。行。の。為。よ。ま。り。と。る。を。た
 作。画。園。も。な。り。は。使。よ。ま。り。と。る。画
 園

きりく 早知 是より久上の禪師より

我ける別録の子御の同百座の獲

たと焼たやとぬ 虎毛 若浪のつれ

教本に精よる 早知 尚やよき教を

是は侍者の九郎助宗也扱も

廿一日の夜管状是身の老かて

を歌ふきのひ入親の歌とす

馬屋の対きては其方より久上の様也

とやてふと初めの時より某は良よと

して出家しき中住といふ成者の中

か登る君は言ひ及もぬひと意搦捕て

あしきとては子かむ行ふ思ふ久

よれ寺へ押寄るは早久上のも

そへ業田のいふはあかしくふ

内中山。俵原の丸島助宗の末たり
 志ひて門と築き入 助宗の行方
 為よは出せしむ 後金殿より
 搦とつて美事とのちなるやう
 く出入テ也。助宗の果る討手の
 為なり。尋常ふお死し。傍
 名残ありてしん上カレ 柞是也

河津の三島末の子ふ。久より御
 墨條の下よ。忠厚の鏡思。階伏
 の。之。尺の長力。指拂。たり。討
 ち。格。を。あ。り。ま。れ。ら。の。助
 宗と。木戸を。固。ひ。て。切。く。出。ま。り。し
 元よ。御。討。た。り。ま。ら。し。ま。お。討。た。れ。い
 と。ま。持。弓。中。田。の。お。三。島。り。ま。ん。て

かゝる長刀を法師乃切せし
衣袋をけしあり。南無ほととぎす
中へ入れし所の新とて思ひ
まきしやうやうの乳白一命表勝負
跡きんと稱せし所の原六其おのみそ
我もくしとあらまれば殺師を強
おめいせしやうやうの原六其おのみそ

のが長刀返り是はことして長刀
獲上の櫃上よきより方りは中より
向ひくけ思ひ置はるよつあぬか
禮儀のよよりありおん生捕よき
さて新劍と奪鎌念へて上せられ
鎌念へておんはる

右之本者觀世大夫織部以章句
真本令放行畢

天保十一年庚子歲孟春改正再板

皇都三條通御幸町西江入町
山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
宮内省御用達

訂正者 觀世清廉

板權 所有

發行所 京都市上京區三條通御幸町西江入町
兼印刷者 檜常之助



